

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」 1F		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和5年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=2190103743-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の近くにはスーパーや薬局、公園があり静かな住宅街にあります。コロナ禍以前の生活に戻りたいと思い、感染予防に努めながら少しずつ取り組んでいるところです。入居後もその人らしい生活が継続できるようご家族と職員が協力し合い、安心して穏やかに暮らせる環境づくりや個別ケアに取り組んでいます。健康面においては、訪問看護と連携をとりながら安心できる体制を整えています。研修体制の充実を図り、職員の質の向上とスキルアップに励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「自分らしく生きる」を掲げ、管理者と職員は、利用者一人ひとりの状況を丁寧に分析しながら個々に合った支援を提供しており、利用者と家族の満足度も高い。運営推進会議には利用者も参加し、行政、地域住民、家族等で課題点を話し合いながら、利用者のケアを充実させるための協力体制を整えている。また、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した就業条件や職場環境の整備、職員教育等も行われている。研修参加や資格取得の際には、受講料等への助成がある。職員は、平等に計画的に学びの機会を得る事ができ、スキルアップと仕事継続へのモチベーションも高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生きる」を理念に掲げ、職員で共有してその理念に近づけたサービスが提供できるよう努めています。	集団で過ごすより、居室で一人で過ごすことを好む利用者が増加傾向にある。利用者一人ひとりの状態や思いを把握し、理念の「その人らしく生きる」の実現に向け、集団及び個別の対応方法について、毎日のカンファレンスで話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加したり徒歩や買い物へ出かけた際に、地域の方々とあった時は挨拶等を行い地域の一員として交流ができるように取り組んでいます。	地域の自治会に加入しており、職員と利用者が清掃活動や文化祭などに参加し、地域との交流に努めている。近隣のスーパーに買い物に出かけるなど、地域の一員として生活できるよう支援している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度2回目より対面での会議を再開し、会議メンバーにご利用者様からの生の声や写真を観ながらの日頃の生活を報告する事ができました。書面開催では伝えきれなかったヒヤリハットや事故報告の対応策について報告し、意見を頂きました。	5月から対面会議となり、会議メンバーと共に、家族や利用者も参加し意見交換が行われ、意見を運営に活かしている。書面会議だけでは十分に把握できなかった利用者の様子などが理解され、話し合いながら、利用者サービスの向上に繋げている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度について問い合わせたりなど、助言や指導を受けています。また運営推進会議に参加頂いた際には実情を報告し意見や評価を頂き、協力関係を築けるよう取り組んでいます。	日頃から、電話やメールで報告や相談を行っている。運営推進会議には、市の介護福祉課や地域包括支援センター担当者の参加もあり、良好な協力関係を築いている。介護保険制度や生活保護受給者の対応なども担当者に相談し、助言を得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0にしよう検討会議」を3か月に1回開催しています。身体拘束防止について研修を開き、具体的な行為を理解して身体拘束をしないケアを行っています。	法人主催の研修会や事業所の学習会、委員会等で学びながら、拘束ゼロの徹底を図っている。利用者一人ひとりの状態や、ヒヤリハット事例の分析を行い、「～かもしれない」と起こる可能性と対策方法を挙げながら予防に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修、年1回の勉強会に参加して知識を身につけ、虐待が見過ごされないよう注意し、自身もしてしまわないよう防止に努めています。	同法人の事業所と合同で開催する会議や、定期的に開催している研修会、事業所内の勉強会等で学びながら、虐待防止に取り組んでいる。利用者にあざがあった場合、転倒はなかったかなど原因を調べ、毎日のケアや関わり方も見直している。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要だと思われる方には成年後見人センターにつなげるなどしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の代表者が説明しています。オンラインを利用し、管理者が立ち会って不安な点など丁寧に説明させていただいています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のご家族様アンケートで要望や意見を頂いています。また面会時にご意見ご要望を伺っています。職員にはカンファレンスなどで共有、サービスに繋げています。	日々、利用者に関わる中で意向の把握に努めている。家族には、毎月、彩り通信とサービス提供状況報告書を送付し、電話や面会時には意見や意向を聞いている。年1回家族アンケートも行っている。意見や意向はカンファレンスなどで職員と共有し、サービスに反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やカンファレンスの時に意見を出す機会を設けられており話し合っています。	管理者は、日々の業務の中でも、職員に声かけし、意見や要望を聞きながら対応している。また、職員がリーダーに伝えた意見や要望、提案等についても、会議やカンファレンス時に話し合い、運営に活かしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	リーダーや管理者が幹部会議での報告内容を施設会議で伝え向上心ややりがいをもって働けるよう職場環境の整備に努めています。	月1回、リーダーや管理者が参加する法人の幹部会議がある。キャリアアップ制度や職場環境の整備等、会議で話し合った内容を職員に伝えている。また、職員の意向を確認しながら、休憩時間の確保や休暇の取得調整など、就業条件の整備にも努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新人研修、勉強会、研修を開催、社外の研修にも参加しやすいよう勤務調整に努めています。	職員個々の目標シートに基づいて、キャリアアップ研修や資格取得、能力に応じた教育プログラムを受けられるよう面談を行いながら指導している。研修受講費用の助成も行っているが、今後は年間の研修予定など、職員に見える化して行くことも検討するとしている。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	質の向上のため、社内での勉強会等を対面やオンラインで開催しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を任せたり一緒に家事などを行ってお礼を伝え役割をもって頂けるようにしています。またご利用者様の生活歴を大切に暮らしを共にする者同志の信頼関係づくりに取り組んでいます。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から思いを汲み取り、他のスタッフとも確認しあいながらケアに繋がっています。会話が困難な方は、本人本位になるように検討して努めています。	個別支援の中で希望や要望を聴き、ケアに反映している。自分の意思を伝えることが困難になってきた利用者には、表情や反応から汲み取ったり、他のケア場面や家族から得られた情報を共有し、意向に反映するよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで職員から意見を出し反映した支援へ修正しています。またモニタリングにて話し合い、現在の状況に合わせたケアが出来るように確認しています。	医師、訪問看護師、職員の意見を反映しながら介護計画の作成を行っている。面会制限が解除され家族と利用者も対面できるようになり、会えなかった3年間の状況変化も含め、利用者の現状に応じた介護計画の見直しができるようになっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果、様子を記録しスタッフ間で情報を共有しながら日常のケアの実践や介護計画の見直しに活かしています。	介護記録は、ITシステムを導入し詳細に記録している。職員間で記録したデータや内容を共有しながらケアに反映させている。音声入力や定型文などをうまく活用することで、職員の記録にかかる負担が改善され、ケアの充実に活かされている。	介護記録のIT化に伴い、職員が介護計画を確認する機会が減少する傾向にある。今後、介護計画と介護記録が連動し、より個別に具体的なものとなるよう工夫されることを期待したい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様に電話や面会など協力を頂きながら出来る限り柔軟な対応ができるようにしています。状況の変化に対応してその時々ニーズに柔軟にケアできるようにアプローチの仕方を変えるなど取り組んでいます。	現在、自治会との交流はあるが、行政や地域等との交流活動は行われていない。職員が、事業所の庭先を使用して、地域に向けたフリーマーケットを企画するなど、地域住民との交流機会作りに取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや薬局で商品を選んで買い物しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明をし選択して頂きます。往診の場合は日常の様子を伝え、受診の場合はご家族様に様子を伝えていきます。訪問看護と連携し適切な医療が受けられるよう支援しています。	契約時に、利用者と家族の意向を聴き、担当医師を選択してもらっている。入居前からのかかりつけ医を選択した利用者もいるが、多くの利用者が訪問診療のある協力医に切り替え、適切な健康管理を受けている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医と情報共有し、入院先に情報提供して頂きます。早期の退院を受け入れが出来るように入院先にはご利用者様の把握に努め、かかりつけ医、訪問看護と情報共有しています。	入院が必要になった場合には、サマリーシートを作成し入院先に提供している。かかりつけ医や協力医からも情報提供を行い、スムーズに受け入れてもらっている。病院の連携室の担当者が調整し、事業所と連携を図りながら、スムーズな入退院の支援につなげている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においては主治医、家族様と確認、相談しながらホームで出来る事を説明支援しています。看取りを希望される際には方針の共有をしフロア全体で最後までその人らしく過ごせるように支援に取り組んでいます。	職員は、年1回法人による看取りに関する研修会と事業所内での勉強会で学んでいる。看取りケアの際や看取り後には、学習会やケースカンファレンスでケアを振り返り、次に活かすよう取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について勉強会を開催しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害訓練や消防訓練、避難訓練を行ってご利用者様が安全に避難できるように訓練して備えています。また3日分の備蓄品を準備しています。	水害、火災、地震時の避難訓練を定期的実施している。自家発電の設備と3日分の備蓄品を準備し点検を行っている。自治会等に情報提供し、非常時の協力が得られるよう連携していきたいと考えている。	利用者の安全と避難経路の確保に向けて、居室や共用部分の家具等の固定、転倒防止、天井開放部、吊り棚の荷物飛散防止、自家発電機の水没防止等についても対策を図られることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の誇りやプライバシーを損なわないように配慮して声掛けや支援をするように気をつけています。職員同士でも気をつけています。言葉かけや対応など接遇の研修を通して伝えています。	学習会やケースカンファレンスで、職員の言葉遣いや態度について振り返り、利用者の人格やプライバシーを侵害しないよう取り組んでいる。難聴のある利用者には大声で話すのではなく、利用者が理解しやすいような関わり方を検討している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人に合わせた方法で自己決定がしやすいよう働きかけています。お話を聴いたり、何かやりたい事がないか選択肢を示して希望を聴くようにしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で過ごしたい方、テレビの前で過ごしたい方等、ご利用者様のペースで過ごして頂けるよう努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の力に合わせ職員と一緒に買い物や食事の準備、片付けを行っています。ご利用者様と一緒に準備する時の会話にて食事の楽しみや意欲を持って頂けるよう心がけています。	利用者の好みを取り入れながら、職員が三食の食事とおやつを手作りしている。買い出しと準備、調理や片付けなどに積極的に手伝うことを楽しみにしている利用者もある。時折、家族から旬の野菜等食材の差し入れがあり、皆で季節を味わい楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量を記録しています。食事量や水分量が不足がちな方は好みを把握し、好きな物を準備して飲食をお勧めしています。足りない場合はスタッフ同志で情報共有して一日を通じて確保できるよう支援しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理強いにならないように口腔ケアができるように支援しています。希望者は週1回歯科衛生士にケアを受け、ケアの方法の助言等受けています。	利用者の口腔状態に応じた方法を選択している。口腔ケアは、朝と就寝前は全利用者が行い、昼は全介助が必要な利用者や希望者が実施している。現在、8割の利用者が、週1回歯科衛生士のケアを受けている。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人様からの訴えのみならず、必要な方は排泄パターンを把握し誘導しています。トイレで排泄できるよう仕草や表情などで把握するよう努め、トイレ誘導を行っています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望される時やタイミングをみて入浴のお誘いをして一人一人に応じた入浴支援をしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活リズムや体調など状況に合わせて休息したり、一人ひとりの習慣を大事にして気持ちよく眠れるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に必ず目を通し、薬の目的や副作用を知り、用法、容量を守っています。また新しく飲み始めた薬の場合は症状の変化がないか確認をし主治医に報告しています。薬が飲み辛い場合は薬剤師に相談し服薬ができるよう努めています。	薬は管理者と各ユニットリーダーが管理している。誤薬や飲み忘れがないよう遅番勤務者がセットし、早番勤務者が確認、リーダーが服薬支援をすとし、複数回の確認を行っている。薬剤の説明や服薬方法については、薬剤師に相談し指導を得ながら行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや楽しみを把握し、一人ひとりに合わせた楽しみ事や散歩や外気浴で気分転換を図るなど楽しみのある日々になるよう支援しています。	利用者の3分の2は、企画した行事や作業に好んで参加するが、集団での行動を好まない利用者も増加傾向にある。意思表示や自己決定が難しい利用者には声かけを工夫し、利用者のやりたいこと、好きなことを楽しめるよう配慮している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行いながら買い物や散歩、花見や紅葉狩りなど季節の外出をしています。ご家族との交流はご利用者様には大事な事なので、感染対策にご協力頂きながら過ごして頂けるよう支援していきたいです。	ドライブと買い物を兼ねて道の駅に出かけたり、近隣のスーパーや散歩など、外気にあたる機会を設けている。家族の協力を得て、外出もしている。全介助が必要な利用者には、庭での外気浴で気分転換できるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にてお小遣いをお預かりし、ほしい物がある時は一緒に買い物に行ったり、買い物代行をしています。また、ご自分で管理を希望される方にはご家族と相談の上お渡ししています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用様が希望される時は、いつでも電話をつなげています。またご利用者様所持の携帯電話やスマホで自由に電話される方もおられます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花や壁絵などで季節感を取り入れたり、毎日掃除を行うことでご利用様が不快にならず居心地よく過ごせるような場所を作っています。	居間兼食堂や廊下には大きな窓があり、明るく眺めの良い空間である。トイレや脱衣室、浴室も広く、浴槽周りもスペースがあり介助し易い。リフトが設置され、介助者と利用者の負担が少なく、安全に支援ができる。季節の花や絵など飾り、利用者が季節を感じられるよう配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるよう雰囲気作りを工夫しています。気の合うご利用者様同志でおしゃべりしたり一緒にテレビをみたりできるように、また一人になりたい時には一人で過ごせるようなテーブルを配置しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使いなれた物、好みに合わせ居室作りをご家族様と相談しながら取り入れ、ご利用様が安心してゆっくり過ごせる場所になっています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の動線が確保できるような物の配置や、場所が分かりやすいよう居室やトイレにマークや文字などで工夫しています。ご利用者が自立した生活が送れるように取り組んでいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」 2F		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに貼り常に見ながらご利用者様に接するようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と散歩に行かせて頂くときに近所の方に挨拶をしたり少し会話をしたりしています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設会議や各フロアごとに話し合いをにご利用者様への日常支援を考えて行っています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設会議で改善課題を話し合い、サービス向上に具体的に活かしていけるように行っています。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	週に1回カンファレンスを行い気になる事を出しあい、その事を職員で話し合いし取り組んでいます。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修を受け身体拘束をしないケアをさせて頂くように話し合いを行っています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる方には成年後見人センターに繋げるなどしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の代表者が説明しています。オンラインを利用し、管理者が立ち合っ不安な点など丁寧に説明させて頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にアンケートなどに答えて頂き、改善させて頂けるように努力しています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアごとにカンファレンスを行い、1か月に1回施設会議を行い意見を言っています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	受けたい外部研修の助成金が受けられるよう協力しています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修の機会があります。外部研修の情報を発信してもらえ、自分が受けたい外部研修に参加する事ができます。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	質の向上のため、社内での勉強会等を対面やオンラインで開催しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理など職員だけで行わず、入居者様と一緒にしています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃の会話から得られた情報を記録に残し、情報共有しています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表には担当者の意見欄があり、日々の状態を伝えご家族の思いを聞き、ご本人やご家族の意向や希望を取り入れ、ケアプランを作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活に関する事、ケアプランに関する事を記録し、問題点や様子を共有できるようにしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の方が病院など行けないときは病院へ同行したりしています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の時は行っていませんでしたが、以前は町の文化祭に作品を出展していました。今後も機会があれば作品を出展したいと思います。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医の往診や受診の際は日々の様子など伝えるなど、良い関係が築けるよう努めています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	いつ退院しても安心して過ごして頂けるよう各主治医、訪問看護と連携を図っています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人と入居の段階から話し合い、重度化や終末期の在り方について考えて頂き、その方針を医療関係者も含め共有しています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を実施しています。緊急時対応について手順を定めています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回おこなっています。毎月、地震、水害等の訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修などを受け認知症の症状の違いを理解し認知症であっても周りとの関わり方を考えその人を尊重しています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人に意思確認して判断に繋げています。入浴についても意思確認をしています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や食事の好みなど、出来る限りの対応を行っています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食べたい物をお聞きしランチレクなどを行っています。食材なども炒めてもらったりして一緒に行っています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分の低下がみられた時は補食など提供させてもらっています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声掛けにて行ってもらいできない方は支援しています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表から個々のパターンを知り、その方にあった時間で声をかけています。ご自分でトイレに行かれるが失敗がある方には自尊心を傷つけないようにしながら交換しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人が希望しない時は変更を行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て臥床時間を設けたり、夜間はご利用者様のペースで居室に戻るよう努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化があれば主治医に報告しています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや食器拭きなど率先して引き受けてくださってます。気分転換に散歩などお誘いしています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防に努めながら、希望に沿った外出の支援を努めています。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にお預かりし、買い物に行くときに個人のお財布から買い物しています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用様が電話をかけたいと言われた時は支援しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度や温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士で思い思いに過ごして頂いています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具やテレビ、コップなど持ち込んで頂き、今までの部屋に近づけた居室作りにご協力頂いています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーを活用し自立した生活が送れるようにしています。		